

東地申14号  
12月8日開催

## 運転コンクール(車掌部門)の営業列車での実施を中止・見直しを求める緊急申し入れ

1. 運転コンクール(車掌部門)の営業列車での実施を中止すること。また、安全を阻害する方法は、現場の意見を基に見直すこと。

(会社回答)

技能向上と安全のレベルアップを目指すことが運転コンクールの主な目的である。車掌が安全の確保のためにどこにポイントをおいて業務を行っているか、またどのようにお客さまサービスを提供しているかを共有するため、今年度より営業列車で実施する。なお、運転コンクール実施にあたっては安全の確保は前提であり、現場と調整を行いながら体制を構築したうえで対応していく。

現場と認識一致させず 労使議論でも認識一致させないまま

# 一方実施!

主な対立点

- ①営業列車で実施すること
- ②乗務員室内でカメラ撮影を行うこと
- ③審査・評価をしないとしたのに確認シートを作成していること
- ④以上のことが現場と支社で一致していないにもかかわらず、実施に向けて進めていること

目的は一致するが目的に沿っていない方法には反対だ!

(組合) 目的について明確にすること。

(会社) 技能向上、安全のレベルアップを目指すことを目的としているが、日頃、安全安定サービスについて様々なことをしている乗務員の作業にスポットライトを当てることにした。また、人の作業を見ることで良いところは他で取り入れるなど共有化していきたい。車掌の運転部門をやりたいとの意見が昨年の振り返り会議の中で出されていた。

(組合) 目的にある技能向上や安全のレベルアップについては日々指導担当が現場で行っていることだ。目的は分かっただけで一致する。しかし、目的においての方法が一致していない。

現場は営業列車で行うべきでないと言っている。

そしてカメラでの撮影についても安全を確保する環境が損なわれるので行うべきでないと言っている。営業列車で行うこととカメラ撮影について支社と現場で認識が一致しているかを明らかにすること。

現場と運用課が半年間も議論してきたが  
営業列車で実施するリスクについて認識一致しない!

(会社) 営業列車で行う不安があるというのでその不安を解消することをしている。

断固反対の感覚はないので、やり方は一致していると認識している。

(組合) 営業列車で行うことを前提にして、不安要素があるかを質問するから現場は想定されるリスクについて答える。それに対して不安要素を解消していると言われても、そもそも営業列車で行うことに反対している。アンケート結果でも9割が反対だ。シュミレーターや訓練車などの代案も出している。指導担当と何一つ一致はしていない。

(組合) 再度求めるが、多くのリスクが想定されている中で営業列車での運転コンクールは中止すること。また、カメラ撮影も行わないこと。

(会社) 運転コンクールは予定通り営業列車で実施する。

(組合) 審査や評価は行わないとなっていたはずだ。

何故変えたのか明らかにすること。確認シートが存在することが評価するものとして現場は受け止める。

確認シートの使用は止めること。

(会社) 現場との意見交換で審査・評価などはしないと変えてきた。確認シートは事前に区所の基本動作の手順を把握するためと考えていたが、把握方法は検討する。確認シートについては検討する。

## リスクが伴う営業列車での実施は断固反対だ!

運用課の現場に押し付けるやり方で、現場では運用課に対して不信感だらけになっている!  
三現主義を棄てたことはJR東日本の安全の崩壊につながる事態だ!

## 現場から安全風土を構築しよう!